

寄せられた意見とみよし市の考え方

場号	ご意見の趣旨	市の考え方（対応）
1	市がどのような教育を目指しているのかわかった	教職員に本プランを周知し、小小・小中連携の活性化や、授業づくりの改善に取り組みます
	作戦13の「チームみよし」を推し進め、小小・小中の連携を活性化し、教職員が子どもの成長に対してビジョンを持つことが必要だ	
	みよしとしての授業スタンダードを確立し、自ら考える力を育む楽しい授業づくりをしていく必要がある	
2	小中学校へのスクールソーシャルワーカー（SSW）の配置を明記すべきだ	不登校対策の推進（P57）の中に明記していきます
	小中学校への無線 LAN アクセスポイントの整備を明記すべきだ	ICT 教育推進（P51）の中で必要に応じて一体的な整備を進める考えです
3	「総合型地域スポーツクラブ」以外にも、スポーツ振興を推し進めていく必要がある。E ポート交流会や、小学生を対象としたカヌーポロなど、市独自の取り組みとして「カヌーのまちみよし」が発展していくとよい。また、三好池を走るランナーも多いので、マラソンの活性化に取り組んだり、少年野球やサッカーなどの民間の取り組みも推進したりしていけるとよい	「カヌーのまち みよし」の推進については、生涯スポーツ推進（P67）の中で施設の整備をし更なる活性化を図ったり、ふるさと学習（P79）の中で子どもカヌー体験の拡充に取り組んだりします。また、マラソン・野球・サッカーなどの民間やスポーツ少年団等の活動に対しても、市や教育委員会で後援をするなど積極的に支援します
	安城市が一時盛んに取り組んでいた「博学連携」のように、資料館と小中学校が一緒に教材研究を行ったり、市民参加のイベントを企画したりしてはどうか	資料館と小中学校の連携に関しては、P70・71に記載したように、館蔵資料貸し出しの際に説明資料を加えたり、埋蔵文化財を活用した出前授業を拡充したりします
4	20の作戦という名前で重点施策を設定し、PDCA サイクルで実効性を高めようという点がよい	今後は、外部委員などの助言も得ながら、みよし教育プランが実効性のある計画となるよう努めます。
	（仮称）子ども総合支援センターや、（仮称）みよし市教育センターが、今後活性化されるとよい	（仮称）子ども総合支援センターや、（仮称）みよし市教育センターの平成29年度開所を目指し、準備を進めます
5	教育関係のさまざまな活動を統合していこうという意図が読み取れた。子育てサービス、就学援助などの市の良い取り組みが、より多くの市民に伝わるよう、更なる工夫を重ねてほしい	作戦3「子育てに役立つ情報をたくさん発信します」（P23）にある、家庭教育だよりの発刊を実現し、より多くの市民に子育てに役立つ情報が届くよう努めます
6	分かりやすくして良い。みよし市の教職員として、目指す人間像に向かって日々の活動に取り組みたい	みよし市の教職員の皆さんが丸となって教育活動に取り組めるよう、支援をさせていただきます

7	20の作戦が素晴らしい。作戦14の「サンライブでいろいろなことが学べるようにします」の学びの中に、生活の基本の掃除、洗濯、料理、お金の管理などの講座があるとよい	生活に関する講座に関しては、現在は料理や収納術などに関する生涯学習講座を開催しています。今後の市民のニーズに合った講座開設のため、貴重なご意見として参考にします
8	みよしの良さを知る人が少ないから、「ふるさとを愛する心を育てる」という発想ではなく、大企業の城下町として全国から人が集まっているというみよしの長を大切にすべきではないか。この長を生かし、日本中の文化を比較して学習するという広い視野を持たせることが必要ではないか	「みよしを愛する心を育てる」だけでなく、ふるさと学習を完結させるのではなく、そこから全国に、世界に広がっていくような広い視点での学習を進めていきます。また、みよしの伝統文化のみを学ぶ「ふるさと学習」ではなく、全国から人が集まっているといった現在のみよし市の魅力についても幅広く学ぶ機会を作りたいと考えています
	生涯学習グループや、ボランティアグループなど、既存の活動グループ等も広報で幅広く情報宣伝していくとよい	生涯学習グループやボランティアグループなどの活躍についても、作戦3「子育てに役立つ情報をたくさん発信します」(P23)にある家庭教育だよりの中で、多くの市民に情報発信していきます
9	子どもの登下校や地域での安全確保、安全の見守りが必要だ。さらに子ども自身が自分の命を守る力をつけることも必要だ	登下校の安全確保に関しては、現在もスクールガードリーダーや学校安全ボランティアの助けを借りています。学校ボランティア制度を活性化する(P40)などし、家庭・地域・学校の連携を更に強固にします。また、命を大切にする教育に関しては、新たに教科化される「特別の教科道徳」を中心とした心の面も含め(P28)、学校教育全体で推進します
	幼保小中に加え、県立の高校なども含めた更なる連携が必要である	P59に記載した「幼保小中の連携強化」での取り組みを確実に行うと共に、P51に記載した「地域未来塾」の取り組み(中高生に対する学習支援)などをきっかけに、中高の更なる連携も推進していきます
	歴史や文化だけでなく、芸術にも力点を置く必要がある。常設の芸術ギャラリーや、子ども・親子・一般向けのアート講座などを開催することはできないか	図書館等を訪れた際に、多くの市民が芸術に親しめるよう、サンライブ1階に市民の作品を展示等ができるギャラリーが設置されます。アート講座の開催等に関しては、現在はパステル画やクラフトなどに関する生涯学習講座を開催しています。今後の市民のニーズに合った講座開設のため、貴重なご意見として参考にします
10	教育プランの実現に向けて、校外学習用のバスの使用回数を増やしてほしい	市のバスは、市全体で活用しているため、校外学習だけに振り分けることは難しいですが、ふるさと学習等を推進するために必要な交通手段の確保に努めます

1 1	現状を分析した基本理念に共感した。個別の支援が必要な子どもに対してあたたかい計画となっている。「学ぶ楽しさ」を学校教育を中心に実現していく必要がある	基本理念をもとに、目指す人間像の実現を目指します。計画的に「20の作戦」の実現を目指します
	作戦13の「チームみよし」の取り組みには大賛成である。他市に誇ることでできる取り組みにしてほしい。また、作戦19のふるさと学習も興味深い	
1 2	「生涯学習」「PDCA サイクル」という言葉が何を指すのかを説明した方がよい	多くの方に理解されるよう、特別な用語に関しては第6章の資料編に注釈を設けます
	作戦4がどういった具体的な事業につながるのかわかりにくい	具体的な施策展開がわかるよう、作戦4の表現を変更しました
1 3	三本の柱のⅠに比べて、Ⅱ・Ⅲが軽いように見える	行政区ヒアリングでは、次代を担う子どもの教育に特に力を入れて欲しいという声が大きかったため、Ⅰ「次代を担う子どもをみんなで育てる」の柱には、多くの関連施策を設定しました。しかし、Ⅱ・Ⅲの柱も、生涯にわたる学びには大切であるので、全ての教育施策を通して目指す人間像の実現に迫ります
	作戦5の主体が誰なのかがわかりづらい	わかりやすくなるよう、表現を改めました
	作戦6・12等は、予算面で今後対応できるのかが心配である	計画的に事業に取り組み、教育プランの実現を目指します
	Ⅲ「ふるさとみよし」を創る市民を育てるについては、もう少し子どもだけでなく大人に対する作戦が増えるとよい	地域を創っていく市民の育成は大変重要です。P78以降に記載した「ふるさと学習を推進する」の全施策の中には、大人を対象として事業も多数あるので、みよし教育プラン実現の中で、大人の中にもふるさとみよしを創る意識が育つよう、取り組みを進めます
	作戦17と作戦19、作戦14と作戦18は、関わりが深いので連続させた方がよいのではないか	サンライブの機能や、「ふるさと学習」の内容には多面性があるため、分類にはいろいろな考え方がありますが、事業の実施主体との関連から、原案のままとします
	PDCA サイクルという言葉が市民にどれだけ伝わるのか疑問である	多くの方に理解されるよう、特別な用語に関しては第6章の資料編に注釈を設けます
	女性が安心して働けることは大切だが、子どもが小さいうちは、家に帰ると母親がいるということも大切ではないか	女性の社会進出と子育ての両立には、さまざまな考え方がありますが、市民アンケートやヒアリングの結果から、市としては放課後児童クラブの拡充を進めていきます。放課後児童クラブ指導員には、発達障がいに関する研修等を実施しておりますが、障がいの種類や程度には個性がありますので、臨床心理士等専門職のアドバイスを基に、適切な指導を行っています
放課後児童クラブの担当者の中に、発達障がいに関する研修を積んでいる者を配置するなど、内容の更なる充実があるとよい		
子どもが大きくなったら、親が仕事復帰できるような仕組みができるとよい		

	子どもの障害について知識が足りない為に苦労している親もいるので、ぜひ作戦3によって多くの市民に教育に関する情報を伝えて欲しい	P23に記載した作戦3の「家庭教育だより」の中で、今日的な教育課題・子育て課題の情報が市全体で共有できるよう情報の発信に努めます
	運転免許がないため、子どもが病気になっても子どもを病院に連れて行きづらい家庭もある。作戦4などで子育てに困っている家庭を支援できるとよい	ファミリーサポートセンター(P48)や家庭教育支援の専門員(P49)など、さまざまな手段を講じて、子育てに困っている家庭を支援していきます
	子どもが楽しく学校生活を送れるよう、校舎の改修等を進めて欲しい。トイレの洋式化なども順次進めて欲しい	P32に記載した大規模改修による学校施設の整備により、順次校舎の改修に努めます。トイレについても、大規模改修に合わせて洋式化を進めます
15	小中学校での里山を利用した教育を実施することはできないか 自然を生かし、子どもが遊びの中で体力をつけたり、基礎的運動能力を高めたりする「プレーパーク」の常設ができないか 「火育」への取り組みを市で行えないか	みよし市の子どもが自然と親しみ、体を動かしながら豊かな情操を養うことは重要であると考えています。貴重なご意見として、今後の教育行政の参考にします
16	長久手市にあるゴジカラ村(特別養護老人ホーム・母子家庭世帯用のアパート・幼稚園・集会所・看護学校などが複合的に集まった場所)のような取り組みができないか 子どもが自然の中で自由に冒険することのできる遊び場の設置ができないか 緊急時等に対応できる火気使用のかまどを公園内に設置するなど、火の使い方を学ぶ「火育」に取り組むことはできないか	本市の子育て支援事業等に関する貴重なご提案として、今後、必要性を検討していきます 市の管理する公園は、自由に遊ぶ場ではあるものの、冒険をする場ではないと考えています。また、みよし市都市公園条例では、管理者が認めた場所以外での火気使用は禁止しており、現時点では非常用カマドなどを設置する計画はありません。 なお、災害時に使用する炊き出し用のハソリについては、行政区行事等に対し、貸し出しを行っています
	浄水地区で行われている放課後学校開放、放課後支援事業など、地域や学生のボランティアの力を借りながら、子どもの居場所を増やすような取り組みはできないか	地域・家庭・学校の連携は、今後の教育の重要な課題です。児童館活動や部活動の活性化と共に、子どもの放課後活動がより充実するよう検討を続けます
17	P44の「個に応じた教育を推進する」は、内容からすると「個に応じた支援を推進する」の方が適切ではないか。	ご意見の趣旨を検討し、表現を改めました

18	多世代が集えるオープンスペースやコミュニティカフェなどを設置することは出来ないか	市民の連携・交流は大変重要であると考えています。貴重なご意見として、今後の参考にします
	子育ての最新情報が習得できるようにしてほしい。できれば発信するだけにとどまらず、ネットの伝言板などの機能を使って、交流ができるようにしてほしい	
	日本語が分からない外国人の家庭を支援する場所が北部地区にもあるとよい	現在、子どもを中心に実施している初期日本語指導の更なる充実を目指し、平成29年に（仮称）みよし市教育センターを開所します。また、学習交流センターで週2回開催している日本語教室も継続してまいります。両事業とも、北部地区など複数箇所での実施は検討していません
	サンライズ3階にグランドピアノを設置し、音楽による市民交流ができないか。また、図書館では、現在のような貸出冊数制限なしを継続してほしい	サンライズ3階の講義室兼音楽室に、アップライトのピアノを設置します。また、図書の貸し出しについては、幅広い市民が利用できるよう、図書資料の貸し出しは20冊まで、視聴覚資料は2点までに変更します
	浄水北小のような、地域ボランティアの力を活用した放課後活動、学校開放の活動を行うことを希望する	地域・家庭・学校の連携は、今後の教育の重要な課題です。児童館活動や部活動の活性化と共に、子どもの放課後活動がより充実するよう検討を続けます
19	全国的に取り組みが広がっている「子ども食堂」（両親の共働きや生活困窮などで、十分な食事をとれない子どもに無料（格安）で食事を提供する仕組み）の活動に取り組むことは出来ないか	「子ども食堂」に関するご提案は、貴重なご意見として今後の参考にします